1. 柔道授業への学生派遣事業の効果検証

柔道

1．　鹿屋市立田崎中学校の
　　柔道授業サポート事例

2．　鹿屋市立輝北中学校の
　　柔道授業サポート事例

1．柔道授業への学生派遣事業の効果検証

＜事業概要＞

生徒との年齢が近く，柔道の専門的知識・技能を有する大学生を中学校の武道授業の授業協力者として派遣することによってもたらされる，生徒の知識，技能レベル，関心・意欲等の変化や，教員，大学生の意識・意欲の変化も捉えて成果と課題を明らかにする．

1．鹿屋市立田崎中学校の柔道授業サポート事例

（1）鹿屋市立田崎中学校について

創立 75 年目を迎えた田崎中学校は，「豊かな心と知性を持ち，心身ともに健康で，たくましい実践力を備えた生徒を育成する」ことを教育目標に掲げ，義務教育9年間を見通して「豊かな人間性を備え，力強く未来を切り拓く児童生徒の育成」を目指している．各学年 3 クラスと，特別支援学級 2 クラスの，計 11 クラスで構成され，生徒数は 303 名である．「向学，協力，自律，奉仕」を校訓とし，開かれた学校づくりを目指し，生徒会活動や PTA，地域行事等の活動も盛んである．

（2）柔道授業の計画及び授業実施に向けての課題

体育授業は，中学校第 1 学年から第 3 学年まで各クラス毎に実施されている．

令和 3 年度の武道領域の授業については，2･3 年で「柔道」を 10 月 11 日～29 日の間に 9 時間実施することが予定されていた．

保健体育科教員は，男性教員 1 名と女性教員（臨採）1 名の計 2 名であり，臨採教員の柔道授業においてサポートを行った．

授業実施にあたってはの課題は主に以下の通りであった．

・適切な指導法や指導の範囲・ポイントの理解

・初心者が初心者を教える不安

・安全面の確立

(3) 柔道授業サポートの実際

大学からのサポート内容を以下に示す.

① 将来教職を希望する柔道部 3･4 年生の大学生派遣

今回は上述の柔道授業実施にあたっての課題に対して,臨機応変にサポートができると思われる大学生 7 名に依頼し,承諾を得た.条件として,将来教職を希望する大学 3･4 年生であり,かつ本学武道課程の専修武道論･実習(柔道)を履修した柔道部に所属する者とした.本学の特長の一つである武道(柔道)の高い専門性を有する教職希望の大学生を派遣することで,中学校柔道授業において保健体育科教員が指導する上での様々な不安や困りごとに対し,適切なサポートが可能であると考えた.

サポートは,田崎中学校の 2 年生 1 クラスと 3 年生全クラスの柔道授業で行った.流れとして,1･2 時間目は保健体育科教員が柔道の成り立ち,柔道衣の着方,礼法などを中心に授業を進め,3 時間目から受け身や固め技等の技能に入るタイミングで大学生を 2~3 名ずつ,最終の 9 時間目まで派遣した.

柔道授業サポートに際し,保健体育科教員や派遣大学生との打ち合わせを重ねた結果,こちら(大学)から教材を提供するよりも,中学校の生徒や現場教員の状況に応じた課題に対応することが望ましい,という結論に至った.そこで,上述の手順で派遣大学生を人選し,入念な打ち合わせを行った上で送り出した.

② 授業サポートの実際

･準備運動

･後ろ受け身

・横受け身

・前回り受け身の際の手の位置について

・前回り受け身

・けさ固め（示範）

・横四方固め（示範）

・抑え技の攻防

・投げ技（示範）

・投げ技の練習

（4）柔道授業サポートの成果と課題（保健体育科教員の視点から）

保健体育科教員のインタビュー結果を以下に示す．

①鹿屋体育大学と連携した授業を実施しての成果

・生徒たちがより専門的学べることで，武道の楽しさを知ることができた．

・知識や技能を持つ大学生が入ることで，大幅に怪我が減った．

・見る目が増えたことにより，良い緊張感があった．

②鹿屋体育大学と連携した授業の課題

・これくらいできるだろう，と大学生が思っていたものが中学生にはできないことがあった．

・指導においての理想と現実にギャップがあった．

③鹿屋体育大学と連携した授業で，生徒が特に身に付けることができたと考えること

・礼儀，相手を思いやる気持ち．

・柔道専門の大学生がサポートすることで，受け身が格段に上手になった．

④今後のサポートの在り方

・大学生が来てくれたことで，柔道に興味を持つ生徒が増えたように感じる．

・今回のように，教職や指導者になることを希望する大学生に，授業サポートに入っていただければ良いと思う（器械運動，ハードル走なども）．

（5）柔道授業サポートの成果と課題（生徒の視点から）

柔道授業後の生徒対象のアンケート結果を以下に示す（有効回答数：280 名）．大学生による授業サポートを受けたクラスの生徒が 121 名，大学生による授業サポートを受けていないクラスの生徒は 159 名であった．

①柔道授業の楽しさ

「柔道の授業は楽しかったですか」の問いに対し，大学生による授業サポートがあった生徒は，95%が「そう思う」「ややそう思う」と回答した（図1）．一方，大学生による授業サポートがなかった生徒は「そう思う」「ややそう思う」との回答は 80%であり（図2），大学生によるサポートの有無でカイ二乗検定を実施したところ，明らかな違いが認められた（$p<0.001$）．

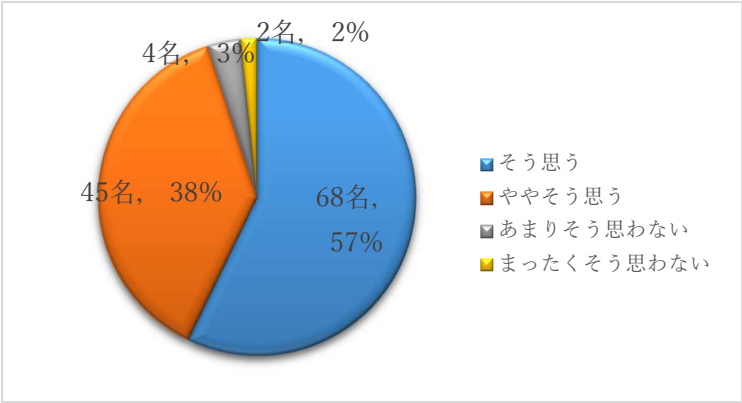

図１　「柔道の授業は楽しかったですか？」の回答
（大学生による授業サポートあり）

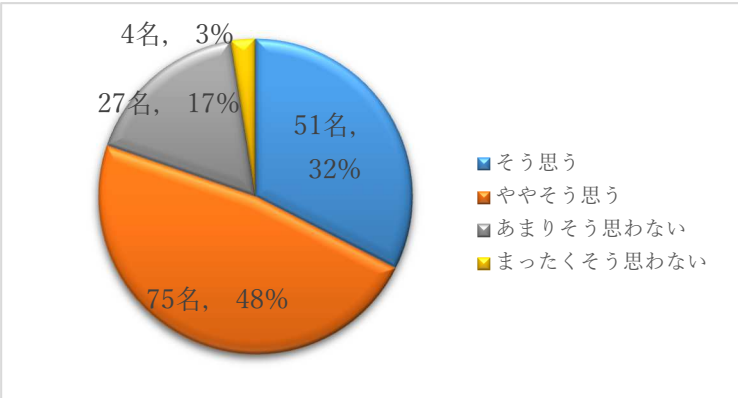

図２　「柔道の授業は楽しかったですか？」の回答
（大学生による授業サポートなし）

②今後，授業を受けたい「武道」の種目

「今後，授業を受けたい武道の種類について教えてください」の問いに対し，大学生による授業サポートがあった生徒，なかった生徒ともに，「弓道」と答えた生徒が最も多かった（図3･4）．

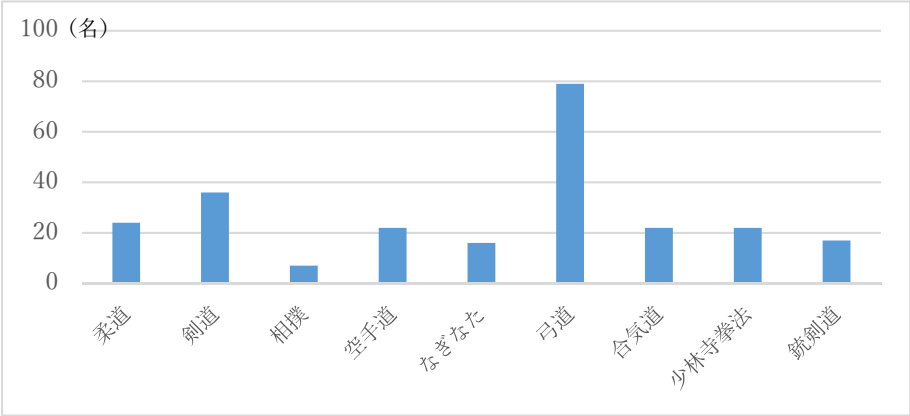

図３　「今後，授業を受けたい武道の種類」の回答（複数回答可）
（大学生による授業サポートあり）

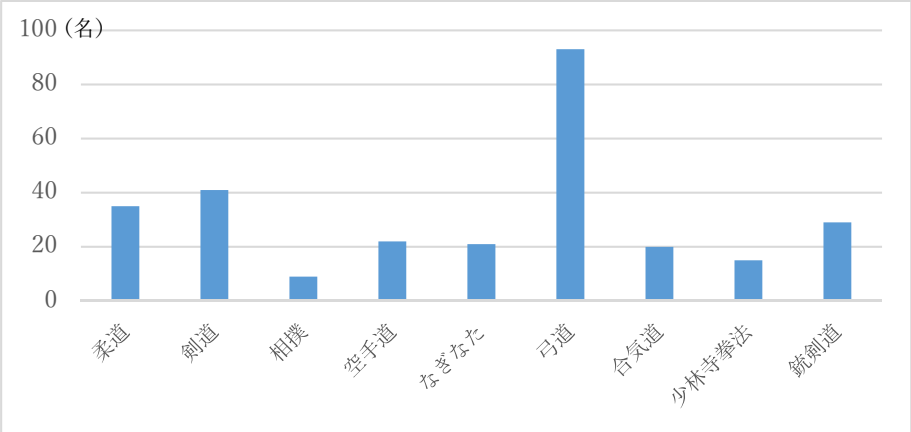

図４　「今後，授業を受けたい武道の種類」の回答（複数回答可）
（大学生による授業サポートなし）

③柔道授業への興味・関心

「武道の授業を経験して，武道への興味・関心が高まりましたか？」の問いに対し，大学生による授業サポートがあった生徒は「そう思う」「ややそう思う」と回答した割貝が 80%を超えた（図5）．一方，大学生による授業サポートがなかった生徒は「そう思う」「ややそう思う」との回答は約 3 分の2程度であり（図6），大学生によるサポートの有無でカイ二乗検定を実施したところ，明らかな違いが認められた（$p<0.001$）．

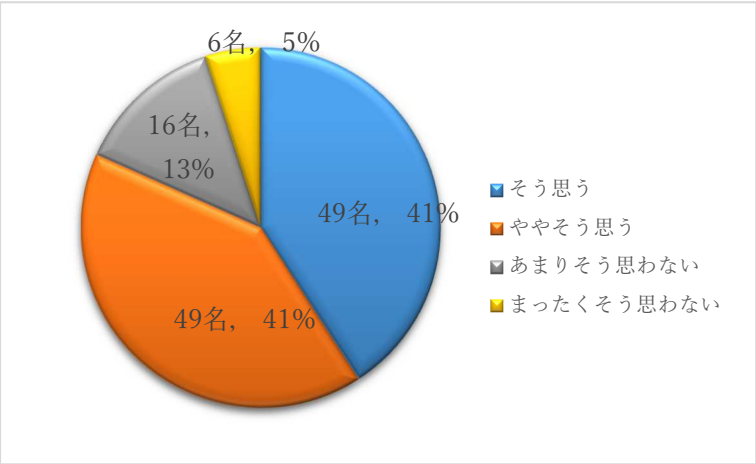

図５　「武道の授業を経験して，武道への興味・関心が高まりましたか？」の回答
（大学生による授業サポートあり）

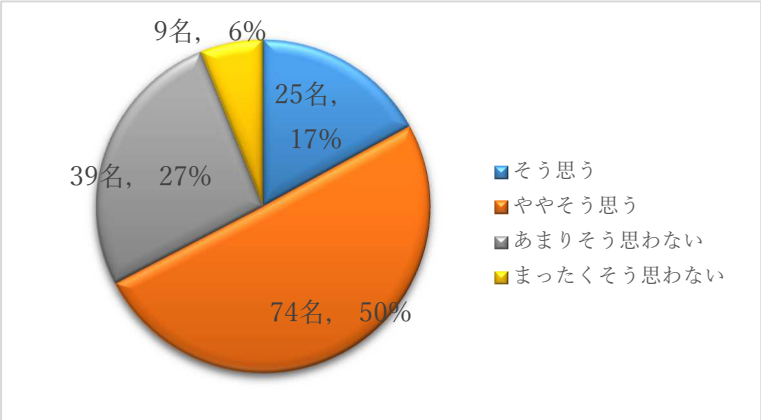

図６　「武道の授業を経験して，武道への興味・関心が高まりましたか？」の回答
（大学生による授業サポートなし）

④柔道授業を通して身に付けた力

「『武道』の授業を通して，どのような力が身に付きましたか？」の問いに対し自由記述で回答を求めた．得られた回答についてテキスト分析を行い，出現回数が上位10までの語（名詞）を表1に示している．最も多く出現した語は「受け身」で（132 回），次いで「礼儀」，「固め」の順であった．

表1 柔道授業を通して身に付けた力
（頻出語・上位 10 語）

抽出語	出現回数
受け身	132
礼儀	76
固め	16
作法	15
技	14
自分	12
相手	12
柔道	11
礼	8
回り	7
怪我(否定)	7

また，これらの語を含む回答例を表2に示している．

表2 柔道授業を通して身に付けた力（回答例）

受け身のとり方．投げ技のかけ方．
礼儀の大切さや尊重することについてよく知れた．
礼儀作法．相手を思いやる力．
支え釣り込み足，抑え技，固め技などの技や，礼の仕方．
自分の身を守ることを身につけた．
相手と協力して怪我なく楽しく競技すること．礼儀．瞬間的に物事を考える事．
柔道の技術や知識が身についた．
礼や左座右起．
前回り受け身，袈裟固め．
相手に怪我をさせないようにする思いやり．

⑤柔道授業の中で，最も印象的だったこと

「『武道』の授業の中で，最も印象に残ったことは何ですか？」の問いに対し自由記述で回答を求めた．得られた回答についてテキスト分析を行い，出現回数が上位 10 までの語（名詞）を表3に示している．最も多く出現した語は「受け身」（49 回），次いで「技」「先生」の順であった．

表3 柔道授業で印象的だったこと
（頻出語・上位 10 語）

抽出語	出現回数
受け身	49
技	31
先生	29
固め	27
体育大学	25
友達	16
練習	13
回り	12
相手	10

また，これらの語を含む回答例を表4に示している．

表4 柔道授業で印象的だったこと（回答例）

受け身や固め技が少しできるようになった．
技の攻防の練習で上手く技をかけることができた．
先生からアドバイスをもらったこと．
固め技を返した時が印象に残った．
先生として来てくださった体育大生の方々の技の技の手本がすごかったです．
前回り受け身をするときに友達と教え合いながらしたこと．
技の練習を繰り返しやっているうちにどんどんコツを掴んでいって，自分でも成長したことがわかったこと．
初めて相手を投げたこと．

⑥柔道授業で，役立ったこと，新たに気づき

「『武道』の授業で，役立ったこと，新たに気づいたこと等について教えてください．」の問いに対し自由記述で回答を求めた．得られた回答についてテキスト分析を行い，出現回数が上位 10 までの語（名詞）を表5に示している．最も出現回数が多かったのは「受け身」（67 回）で，次いで「礼儀」「柔道」の順であった．

表5 柔道授業で役立ったこと
（頻出語・上位 10 語）

抽出語	出現回数
受け身	67
礼儀	35
柔道	20
技	14
相手	13
武道	12
正座	9
怪我(否定)	7
人	7
頭	7
礼	7

また，これらの語を含む回答例を表6に示している．

表6 柔道授業で役立ったこと（回答例）

転んだ時に受け身を使って怪我をしないようにする．
日本人として，相手を尊重することの大切さや礼儀作法など，これから活用していきたいと思った．
何も知らない柔道のことを知れて，試合などをテレビで見るのが楽しかった．
技にはまだまだ色々な技があることに気づいた．
挨拶の大切さ，相手を尊重することに改めて大切さを感じました．
武道は日本の礼儀作法が詰まったものだと気づいた．
正座が長くできるようになった．
転んだ時に怪我をすることがないなと思った．

⑦柔道授業で，困ったこと，難しかったこと等，課題

「『武道』の授業で，困ったこと，難しかったこと等，課題について教えてください．」の問いに対し自由記述で回答を求めた．得られた回答についてテキスト分析を行い，出現回数が上位 10 までの語を表7に示している．最も多くの出現した語は「投げる」（61 回）で，次いで「前回り受け身」「固め」の順であった．

表7 柔道授業での課題
（頻出語・上位 10 語）

抽出語	出現回数
投げる	61
前回り受け身	34
固め	33
受け身	31
相手	25
技	20
足	14
逃げる	10
取る	8
柔道	7
帯	7
投げる(否定)	7

また，これらの語を含む回答例を表8に示している．

表8 柔道授業での課題（回答例）

投げ技が難しかった．
前回り受け身の時，足を縦に向けることが難しかった．
横四方固め，上四方固めが大変でした．
相手に怪我を与えないか不安だった．
技をかけて相手を倒すことが難しかった．前回り受け身が上手くできなかった．
寝技から逃げるのが，難しかった．
柔道着の着方が難しかった．
帯の締めかた．
うまく投げられなかった．

⑧柔道授業の中で自ら考えて工夫したこと

「『武道』の授業の中で，自ら考えて工夫したことについて教えてください．」の問いに対し自由記述で回答を求めた．得られた回答についてテキスト分析を行い，出現回数が上位 10 までの語を表9に示している．最も出現回数が多かった語は「受け身」（38 回）で，次いで「相手」「投げる」の順であった．

表9 柔道授業で工夫したこと
（頻出語・上位 10 語）

抽出語	出現回数
受け身	38
相手	28
投げる	25
怪我(否定)	17
足	14
頭	11
技	10
固め	10
見る	9
取る	9
先生	9

また，これらの語を含む回答例を表10に示している．

表10 柔道授業で工夫したこと（回答例）

投げ技の時の受け身をしっかりできるように工夫した．
相手に怪我をさせないように丁寧にした．
投げる瞬間に相手の襟と袖を思い切り持ち上げること．
前回り受け身をする時，顎を引いて，首を怪我しないようにした．
固める時に逃げられないように足を奥の方にした．
一つ一つの技を力強くしたりした．
固め技で相手が抜け出せないように上手く工夫した．
先生たちが教えてくれた事をしっかり見て友達に教え合ったこと．
受け身を取る時の目線を工夫した．
先生の話をしっかり聞いたり，分からないところは質問する．

⑨柔道授業の経験を生かせそうな場面

「『武道』の授業の経験を，今後どのような場面で生かせそうですか？」の問いに対し自由記述で回答を求めた．得られた回答についてテキスト分析を行い，出現回数が上位 10 までの語を表11に示している．最も出現回数が多かった語は「転ぶ」（60 回）で，次いで「受け身」「不審」の順であった．

表11 柔道授業の経験を生かせそうな場面
（頻出語・上位 10 語）

抽出語	出現回数
転ぶ	60
受け身	45
不審	19
礼儀	19
挨拶	14
人	13
授業	11
怪我	10
守る	10
自分	9
身	9

また，これらの語を含む回答例を表12に示している．

表12 柔道授業の経験を生かせそうな場面（回答例）

不審者に捕まえられそうになった時．転びそうになった時．
自転車通学だから転んだ時に受け身をとる．
礼儀作法などは，いろんな場所で生かせると思った．受け身も転んだ時に使えると思った．
挨拶をするときの礼は，今回習った礼儀を生かせると思う．
人に対しての接し方．
来年の授業や，他にやる機会がある時に習ったことをしたいと思いました．
怪我を防ぐところ．
自分の身を守れるようにしたい．

（6）柔道授業サポートの成果と課題（大学生の視点から）

学生へのインタビュー結果を以下に示す.

①柔道授業サポートの成果（役立ったこと，新たな気づき等）

・これまでに大学の講義，教育実習等で経験したり，学んだ知識や技能が役に立った.

・分かりやすい言葉での説明，模範の見せ方などの大切さに改めて気づいた.

・実際の授業の流れや，生徒との関わり方を知ることができ，とてもためになった.

・生徒側の目線で「話を聞く時間」，「動く時間」をはっきり分けた方がしっかり覚えることができる，という気づきがあり，授業で活用できた.

②柔道授業サポートの課題（困ったこと，足りなかったこと等）

・運動が苦手な生徒への技術指導に困った．説明したことをすぐに実践できる生徒と，そうでない生徒がいるため，個々への指導も積極的に行った．その際，困ったことも他の大学生と相談し，改善できたことは良い経験となった.

・内容を教える時に，言葉足らずになってしまった．そのため，「これ」や「ここ」という言葉が多くなってしまった.

・声のトーンが一定なので，大事な部分を強調できていなかった．声の大きさやトーンに強弱をつけて生徒の関心を引けるようにすることが課題である.

③柔道授業で生徒が身に付けたことは何か.

・ 一番は柔道の楽しさだと思う．なぜなら，ほとんどの生徒が笑顔で授業を受けていた.

・ 相手を思いやる心，優しさ，礼儀，柔道の技法.

・ 柔道の技術，知識.

・ 体の動かし方，使い方.

④柔道授業サポートの際に，自ら考えて工夫したこと

・ 人数が多い場合は交互になって技の練習をしたり，広くて安全なところで練習を行うように声かけをした.

・ １つ１つの説明は，分かりやすくポイントを絞って伝えるようにした．また，模範を色々な方向から行い見やすくした.

・ 柔道は楽しいという印象をもってもらうため，「できる楽しさ」や「怖くない」ということを，「上手」や「ナイス」等のプラスの声掛けを通して伝えた.

・ 柔道衣を掴む位置や足の動かし方等を細かく丁寧に指導することを心掛け，説明の際には落ちついて話すことを意識した.

・サポートの大学生が一か所に固まらずに，周りを見て視野を広げることを意識した.

⑤今後,この経験をどのように生かせそうか,生かしたいか.

・ 自身が教職を目指しているので,学校現場を経験でき,生徒への関わり方,授業の進め方について
すごく勉強になった.

・ 授業の組み立て,進め方についても易から難,といった段階分けをすると上達しやすいことが分かった
たので生かしていきたい.

・ まずは,これから大学の授業で取り組む模擬授業や,4 年次の教育実習にも生かしていきたい.

・ 4 月からの教員生活に役立てたい.

(7)まとめ

まず，今回の柔道授業への学生派遣事業に快くご協力いただき，本学の大学生に貴重な経験をさせていだいた，鹿屋市立田崎中学校の皆様に心より感謝を申し上げたい.

柔道授業サポートの成果と課題について，保健体育科教員の視点からいただいた多くのコメントや，授業の中で学んだことを，是非とも将来は教職に就いて生かしてほしい.

生徒の視点からのアンケートからは，「柔道の授業のは楽しかったですか？」「武道への興味・関心が高まりましたか？」の質問に対して，全体をとおして，おおむね 8 割以上の生徒が肯定的に回答しており，授業の目的が達成できたものと考えられる．また，上記の質問に対する否定的な回答の割合が，授業サポートありの方が少ない結果となった．これには複数で指導する場合の利点である，「見る目が増えたことによる良い緊張感」や「つまずいた生徒へのフォローがしやすい人的な余裕」等が影響したものと考えられる.

「今後，授業を受けたい武道の種目」について，全体をとおして唯一の非対人型の武道である弓道が突出して多い結果となった．その理由について，さらに検証を進めたいところである.

「柔道を通して身に付けた力」のテキスト分析からは，「受け身」と「礼儀」が突出して多い結果であった．これは今日の武道（柔道）の授業に求められる内容であろう，「安全の確保」や「我が国の伝統文化的側面の理解」に合致するものであり，授業の目的が達成できたものと考えられる.

最後に，今回の柔道授業への学生派遣事業は，受け入れていただける中学校と体育大学を有する，という条件の上で成り立ったことであるが，本事業が生徒，中学校，大学生，大学など，関わった皆さんにとって少しでもプラスになれば幸いである.

2. 鹿屋市立輝北中学校の柔道授業サポート事例

(1) 鹿屋市立輝北中学校について

近年，過疎化・少子化が進んだことで，生徒数が減少し，平成23年4月に輝北地域の 2 つの中学校の市成中と百引中が学校統合して，新たに輝北中学校として開校した.現在，全校生徒は 52 名で，各学年 15 名～22 名の小規模校である.「あいさつの声がとびかう笑顔あふれる学校」をキャッチフレーズに教育活動を行われており，知・徳・体の調和のとれた，個性きらめく生徒を育成することを教育目標に掲げている.

(2) 柔道授業の計画及び授業実施に向けての課題

令和 3 年度の武道領域の授業については，1～3 年生で「柔道」を 12 時間ずつ実施することが予定されていた.

保健体育科教員は，男性教員 1 名であった.

授業実施にあたってはの課題は主に以下の通りであった.

・専門的な実技指導ができる人材の確保

・安全指導の確立

(3) 柔道授業サポートの実際

大学からのサポート内容を以下に示す.

① 将来教職を希望する柔道部 3･4 年生の大学生派遣

今回は上述の柔道授業実施にあたっての課題に対して，臨機応変にサポートができると思われる大学生 7 名に依頼し，承諾を得た.条件として，将来教職を希望する大学 3･4 年生であり，かつ本学武道課程の専修武道論・実習（柔道）を履修した柔道部に所属する者とした.本学の特長の一つである武道（柔道）の高い専門性を有する教職希望の大学生を派遣することで，中学校柔道授業において保健体育科教員が指導する上での様々な不安や困りごとに対し，適切なサポートが可能であると考えた.

サポートは，輝北中学校の1～3 年生全クラスの柔道授業の 3 時間目(12 月 20 日の 2～4 校時）に，大学生 7 名を派遣した.サポートに際し，中学校からご提示いただいた以下の 3 つのねらいを受けて，上述の手順で派遣大学生を人選し，入念な打ち合わせを行った上で送り出した.

✓柔道に触れる機会がない生徒たちへの体験活動（生徒）

✓柔道の楽しさや奥深さに触れる（生徒）

✓大学生自身の模擬教育実習（大学生）

② 授業サポートの実際

・教員の説明

・横受け身

・前回り受け身

・体落としの段階的指導

（4）柔道授業サポートの成果と課題（保健体育科教員の視点から）

保健体育科教員のインタビュー結果を以下に示す．

①鹿屋体育大学と連携した授業を実施しての成果

・専門的な技術

・外部との交流

②鹿屋体育大学と連携した授業の課題

・打ち合わせ時間の確保

③鹿屋体育大学と連携した授業で，生徒が特に身に付けることができたと考えること

・礼節，けじめ

④今後のサポートの在り方

・多種目への広がり

（5）柔道授業サポートの成果と課題（生徒の視点から）

柔道授業後の生徒対象のアンケート結果を以下に示す（有効回答数：51 名）．

①柔道授業の楽しさ（図7）

「柔道の授業は楽しかったですか」の問いに対し，82%の生徒が「そう思う」，18%の生徒が「ややそう思う」と回答した．「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と回答した生徒は 0 名であった．

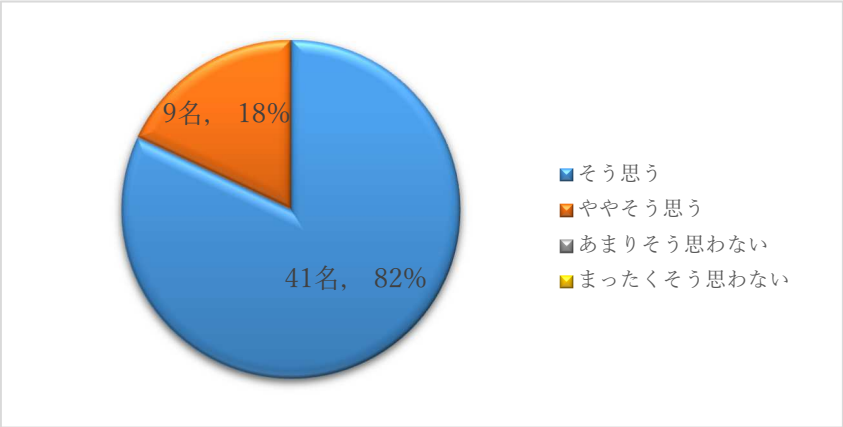

図 7　「柔道の授業は楽しかったですか？」の回答

②今後，授業を受けたい「武道」の種目（図8）

「今後，授業を受けたい武道の種類について教えてください」の問いに対し，「弓道」と答えた生徒が 35 名と最も多く，次いで，「柔道」が 27 名，「剣道」が 20 名と続いた．

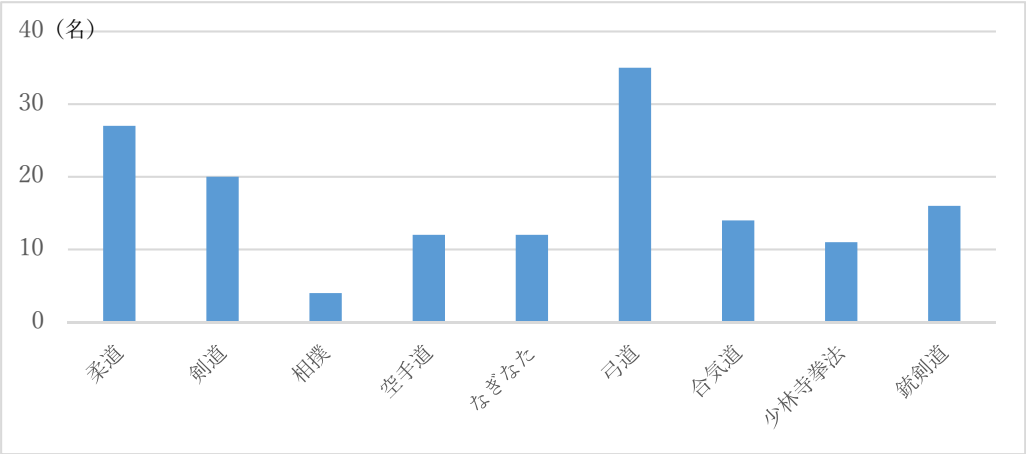

図８　「今後，授業を受けたい武道の種類」の回答（複数回答可）

③柔道授業への興味・関心（図9）

「武道の授業を経験して，武道への興味・関心が高まりましたか？」の問いに対し，「そう思う」「ややそう思う」と回答が 96%，「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」が計 4%という結果であった．

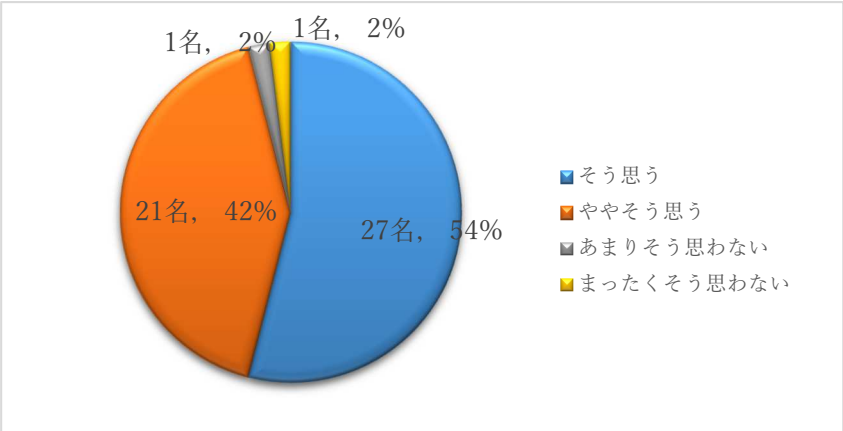

図９　「武道の授業を経験して，武道への興味・関心が高まりましたか？」の回答

④柔道授業を通して身に付けた力

「『武道』の授業を通して，どのような力が身に付きましたか？」の問いに対し自由記述で回答を求めた．得られた回答についてテキスト分析を行い，出現回数が上位10までの語（名詞）を表13に示している．最も多く出現した語は「受け身」で（14 回），次いで「礼儀」「礼」の順であった．

表13 柔道授業を通して身に付けた力
（頻出語・上位 10 語）

抽出語	出現回数
受け身	14
礼儀	13
礼	11
自分	10
相手	10
体	5
やり方	3
心	3
基本	2
気	2
集中	2
仲間	2
動作	2
落とし	2

また，これらの語を含む回答例を表14に示している．

表14 柔道授業を通して身に付けた力（回答例）

受け身や基本的な動作．
礼儀を忘れない力．
礼の大切さ．受け身の取り方．
受け身で自分の身を守ること．
相手がいることの大切さ．
体の使い方．
心を落ち着かせる力．相手を敬う気持ち．
仲間の協力する力．
体落としの基本の動作．集中力．

⑤柔道授業の中で，最も印象的だったこと

「『武道』の授業の中で，最も印象に残ったことは何ですか？」の問いに対し自由記述で回答を求めた．得られた回答についてテキスト分析を行い，出現回数が上位 10 までの語（名詞）を表15に示している．最も多く出現した語は「試合」（15 回），次いで「技」「受け身」の順であった．

表15 柔道授業で印象的だったこと
（頻出語・上位 10 語）

抽出語	出現回数
試合	15
技	14
受け身	9
体育大学	9
先生	8
柔道	6
礼	6
練習	5
最後	4
自他共栄	4
精力善用	4

また，これらの語を含む回答例を表16に示している．

表16 柔道授業で印象的だったこと（回答例）

本物の試合の迫力がすごかったと思いました．
体育大生の技を見た時．
受け身が日常生活でも役に立つこと．
体育大学生の柔道を見て凄かったし，特に試合が凄かった．
大学の先生たちの指導．
柔道の受け身の練習の時，鹿屋体育大学から来た人に教えてもらえる前よりも綺麗に受け身ができるようになった．
礼に始まり礼に終わる．
二人組で投げ技を練習したこと．
最後に先生たちが背負い投げや体落としなぉ 2 年生で習う技をやってくれたことです．
精力善用自他共栄．

⑥柔道授業で，役立ったこと，新たに気づき

「『武道』の授業で，役立ったこと，新たに気づいたこと等について教えてください．」の問いに対し自由記述で回答を求めた．得られた回答についてテキスト分析を行い，出現回数が上位 10 までの語（名詞）を表17に示している．最も出現回数が多かったのは「受け身」（13 回）で，次いで「礼儀」「柔道」の順であった．

表17 柔道授業で役立ったこと
（頻出語・上位 10 語）

抽出語	出現回数
受け身	13
相手	9
礼儀	9
人	7
柔道	4
挨拶	3
自分	3
武道	3
礼	3

また，これらの語を含む回答例を表18に示している．

表18 柔道授業で役立ったこと（回答例）

たくさん礼をしている．転んでも受け身ができる．
礼法．相手のことを考える．
礼儀の大切さ．
武道は人を傷つけるためではなく，人を守るためにある．
柔道は授業だけでなく私生活でも役立つ．
挨拶の大切さ．
自分の命や人々の命を守れること．
武道は人を傷つけるためではなく，人を守るためにある．

⑦柔道授業で，困ったこと，難しかったこと等，課題

「『武道』の授業で，困ったこと，難しかったこと等，課題について教えてください．」の問いに対し自由記述で回答を求めた．得られた回答についてテキスト分析を行い，出現回数が上位 10 までの語を表19に示している．最も多くの出現した語は「投げる」（21 回）で，次いで「前回り受け身」「固め」の順であった．

表19 柔道授業での課題
（頻出語・上位 10 語）

抽出語	出現回数
受け身	21
投げる	9
前回り受け身	8
体落とし	7
やり方	6
技	5
足	4
痛い	4
回る	3
帯	3

また，これらの語を含む回答例を表20に示している．

表20 柔道授業での課題（回答例）

受け身を取る時が怖かったです．
投げ技のやり方が難しかった．
前回り受け身が全体的に難しかった．
大腰と体落としが難しかった．
技をかけるのが難しかった．
人を投げるときの足の動き．前回り受け身．
受け身で打った時に痛い．技があまりうまくできない．
投げ技や柔道着の帯の付け方．

⑧柔道授業の中で自ら考えて工夫したこと

「『武道』の授業の中で，自ら考えて工夫したことについて教えてください．」の問いに対し自由記述で回答を求めた．得られた回答についてテキスト分析を行い，出現回数が上位 10 までの語を表21に示している．最も出現回数が多かった語は「受け身」（12 回）で，次いで「人」「怪我（否定）」の順であった．

表21 柔道授業で工夫したこと
（頻出語・上位 10 語）

抽出語	出現回数
受け身	12
人	7
怪我(否定)	6
見る	6
相手	6
技	5
取る	4
投げる	4

また，これらの語を含む回答例を表22に示している．

表22 柔道授業の中で工夫したこと（回答例）

どうしたら綺麗に受け身や技ができるか工夫した．
上手な人を見てコツを掴んだ．
相手を怪我させないように投げるには，どうしたらいいか．
相手のことを考えて投げること．
難しい技をわかりやすく区切りをつけながら覚えたこと．
投げられた時の受け身の取り方．
相手のことを考えて投げること．

⑨柔道授業の経験を生かせそうな場面

「『武道』の授業の経験を，今後どのような場面で生かせそうですか？」の問いに対し自由記述で回答を求めた．得られた回答についてテキスト分析を行い，出現回数が上位 10 までの語を表23に示している．最も出現回数が多かった語は「守る」（8 回）で，次いで「受け身」「身」の順であった．

表23 柔道授業の経験を生かせそうな場面
（頻出語・上位 10 語）

抽出語	出現回数
守る	8
受け身	8
身	8
礼儀	8
転ぶ	7
授業	6
人	6
自分	5

また，これらの語を含む回答例を表24に示している．

表24 柔道授業の経験を生かせそうな場面（回答例）

自分の身を守らないといけない時．
転んだ時などに受け身を取れるようにしたい．
もし，自分の身が危険になった時に生かせそう．
礼儀をしっかりする．思いやり．
怪我しそうになった時．転びそうになった時．
これからの授業や礼儀．
どんな人でも相手を尊重して行動できる．

（6）柔道授業サポートの成果と課題（大学生の視点から）

学生へのインタビュー結果を以下に示す.

①柔道授業サポートの成果（役立ったこと，新たな気づき等）

・ 学校ごとに雰囲気が異なるので，その学校の雰囲気や生徒に合った指導を心掛ける必要があると感じた.

・ 授業の組み立ての工夫ができるようになった.

・ 身体の動きを言語化することが難しかった.

・ 生徒との距離感や話し方に気をつけたいと感じた.

・ 生徒数の少ない学校では，生徒１人１人の顔を見て授業ができたので，表情や反応を見ることができ，とても授業がしやすかった.

・ 生徒を動かす時には，具体的な指示を出した方が良いと感じた.

②柔道授業サポートの課題（困ったこと，足りなかったこと等）

・ 初めて話す生徒とコミュニケーションをとるのが難しかった.

・ 生徒に技を説明する時に敬語を使ってしまった．授業のサポートに入っているので，適切な言葉使いが足りなかった.

・ 本時の授業で一番学んでほしかったポイントを作れなかった．もう１つ山を作りたい.

・ 言葉が出てこないで，詰まってしまうことが多かった.

・ 安全の確保

③柔道授業で生徒が身に付けたことは何か.

・ 柔道の楽しさ

・ 技能，優しさ，視野の広さ，知識

・ 技術，礼儀，感謝する気持ち

・ 安全（頭を守ること）

④柔道授業サポートの際に，自ら考えて工夫したこと

・ 柔道に触れる機会がほとんど無い生徒に対して，受け身や体落としの技術を言葉だけでなく，実際に行ってみて分かりやすく説明した.

・ 説明をコンパクトにする，返事をさせる，声に抑揚をつける.

・ 説明を短くし，活動の時間を増やしたこと.

・ 活動の時間を増やしても生徒がだらだら動かないように，練習する本数等細かな指示を出したこと.

・ 楽しい授業，聞き取りやすい声，テンポの良い喋る速さ.

⑤今後,この経験をどのように生かせそうか,生かしたいか.

・ 実際に教員になった時の授業.

・ 将来教員を目指しているので,そこで上手く柔道の授業ができればいい.

・ 4 月からの教員生活では,コンパクトな説明で生徒を動かし,安全を十分に確保していきたい.

・ 今年の 6 月には教育実習を控えていて,実習でも生徒の前に立って,座学や実技を教えることになると思うので,今回の授業サポートで得た経験や足りなかった点,課題を改善して臨みたい.

(7)まとめ

まず，今回の柔道授業への学生派遣事業に快くご協力いただき，本学の大学生に貴重な経験をさせていだいた，鹿屋市立輝北中学校の皆様に心より感謝を申し上げたい.

柔道授業サポートの成果と課題について，保健体育科教員の視点から「専門的な技術」と「外部との交流」の成果として挙がり，また課題として「打ち合わせ時間の確保」が挙げられた．なお，いただいたコメントや，授業の中で学んだことを，是非とも将来は教職に就いて生かしてほしい．生徒の視点からのアンケートからは，「柔道の授業のは楽しかったですか？」の質問に対して全員の生徒が，「武道への興味・関心が高まりましたか？」の質問に対して 96%の生徒が肯定的に回答しており，授業の目的が達成できたものと考えられる．この結果は，保健体育科教員による従前の柔道授業の中で，大学生の専門的な技術を的確に活用していただいた賜と考えられる.

「今後， 授業を受けたい武道の種目」について，全体をとおして唯一の非対人型の武道である弓道が突出して多い結果となった．その理由について，さらに検証を進めたいところである.

「柔道を通して身に付けた力」のテキスト分析からは，「受け身」「礼儀」「礼」「自分」「相手」が多い結果であった．これは今日の武道（柔道）の授業に求められる内容であろう，「安全の確保」や「我が国の伝統文化的側面の理解」に合致するものであり，授業の目的が達成できたものと考えられる.

「柔道授業で印象的だったこと」の解答例には，「本物の試合の迫力がすごかった」「体育大生の技を見た時」が示されており，テキスト分析からは，「試合」と「技」が突出して多い結果であった．その理由として，今回，輝北中学校の柔道授業のねらいの一つに，「柔道の楽しさや興味深さに触れる(生徒)」があり,それを受けて,授業の最後に披露した大学生同士での模擬試合が影響したものと考えられる.模擬試合において,押し込んできた相手の力を利用して,巴投げで見事な一本を決めた時に最も大きい生徒の歓声が上がった.

最後に，今回の柔道授業への学生派遣事業は，受け入れていただける中学校と体育大学を有する，という条件の上で成り立ったことであるが，本事業が生徒，中学校，大学生，大学など，関わった皆さんにとって少しでもプラスになれば幸いである.